

I 学校教育目標 『未来をひらき 心豊かに たくましく生きる力の育成』

☆☆はぐみたい資質・能力☆☆ ～良さを生かし、進んで学ぶ子の育成～

令和4年度基本方針より

見通す

目標や見通しをもって！

- ・何を (内容)
- ・何のために (目的)
- ・どのように (方法)
- ・どのくらい (程度)
- ・いつまで

やり抜く

主体的にねばり強く！

- ・自力解決できる手立て
- ・学習を振り返る手立て (ノートや掲示物)
- ・ヒントや助言など
- ・UD や ICT の活用

振り返る

学び・仲間・考えの良さを！

- ・わかるようになった
できるようになったこと
- ・考えの変わったところ
- ・友達の考えの良さ・気付き

II 重点教育目標 『進んで学び 互いに高め合う子の育成』

○ 相手に伝わるように！

○ 質問できる！

○ 感想が言える！

(1) 学び方の習得と児童が見通しをもって主体的に学習を進めていく力をはぐくむ。

- 「何を」 「どのように考えるか」 「何を学んだか」
- 自力解決や間接指導の話し合いの仕方・進め方
- 『島川スタンダード』の定着
- 振り返りと次時への意欲付け

(2) ユニバーサルデザインの有効活用・思考の可視化

- 教材教具の工夫・ICT (タブレット, 大画面テレビ等) の活用
- 児童の実態や単元の特性に合わせた活用
- ユニバーサルデザインの考えに立ったわかりやすい授業づくり

(3) 言語活動の工夫

- 思考の流れをノートにまとめ、発表する。(図や言葉を用いて表す思考ツールを活用)
- 実態に合わせた取組 (※ 少人数指導の特性：必要に応じ、多様な考え方を指導者側で提示する等。)

(4) 基礎・基本の充実に向け、家庭学習の内容の工夫等の取組

- 家庭学習目標：「学年×10分+10分」
- 授業との関連を図った内容、苦手部分の克服、テストの復習 (Challengeテストの過去問題等の取組)

(5) 読書活動

- 読書週間・交流会などの取組、主体的な読書習慣の定着

Ⅲ 研究主題:『個々の力を伸ばし、互いに高め合う子どもの育成』 (3/3年次) ～ 自分の思いや考え方を伝え合う算数科の授業を通して ～

1 本校児童の実態

本校は児童数27名の小規模校である。全体的に素直で優しい気質をもち、全校での体力向上の取組:「縄跳びチャレンジ」などでは、目標に向かって熱心に取り組む姿が見られる。

学習場面においては、個々に課題はあるものの、見通しがもてると課題解決に向け、一生懸命に取り組むことができる。

課題の具体としては、問われていることが分からない、考えを言葉で表現できないなど、読解力・表現力の向上が挙げられる。

また、困り感やつまずきがあると、活動に参加できなかつたり意欲が途切れてしまつたりする場面も見られるため、わかりやすい授業、安心して学べる環境づくりをめざしていくこと、個に応じた配慮や手立てがより大切になると考える。

2 主題

研究主題:『個々の力を伸ばし、互いに高め合う子どもの育成』

～自分の思いや考え方を伝え合う算数科の授業を通して～ 第3年次/3年間計画

3 成果

1年次は、『わかりやすい授業づくり・ユニバーサルデザインの活用』をテーマに研究を進めてきた。

2年次は、思考ツール『Y(T)チャート』を用いた授業実践を通し、図と言葉を照らし合わせて自分の考えを書き出し、説明する練習を繰り返すことにより、少しずつ表現力を向上させることができた。

また、振り返りの取組により、書くことを通して、『思考を整理すること』に繋げることもできた。

成果としては、UD教材の活用や視覚化を図ることで、学習の流れが分かり、「見通し」をもって学習に取り組むことや意欲を引き出すという効果が見られた。

更に、課題の焦点化:「何に向かってゴールはどこか」や解決の見通し:「何が使えそうか」など視点をもたせることで、学習活動に意欲的に参加する姿も見ることができた。

実態に合わせた教材教具の開発や授業構築、児童の困り感を予測し、個に応じた手立てを準備することで安心して学べる環境を生み、児童の変容を通してその有効性を感じることができた。特別支援的配慮が必要な児童が多いことから、安心して学べる環境づくり、課題の焦点化や授業づくり、個に応じた支援体制の大切さを改めて感じた。

4 課題と今年度の重点

課題としては、少人数学習、学力差がある中での交流場面の工夫、個別支援が必要な児童への対応や支援のタイミング等が挙げられる。基本的には、児童の実態に応じたものとなるが、単元の特性を考慮しながらの指導が必要とされる。

算数科における課題解決場面では、自分の考えを言葉にすることが難しい実態があるので、児童の実態に合わせ段階を踏みながらスモールステップで言語表現力を身に付けさせたい。

そのために、思考の流れを整理できるような手立てを考えたり、学習のポイントとなる算数用語や説明の言葉を補助したりすることで、表現活動の向上を目指していく。

『ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり』の本研究3年次となる今年度は、これまでの研究で得た成果を活用しながら、自分の思いや考え方をよりよく伝え合うことができるようにしたいと考える。

V 研究イメージ等

☆3年次（授業研究の検証・改善）☆

～『わかる・できる』の実感、主体的な学び～

<自分の考えを表出する場面において>

- ①必要な用語を用いて、順序立てて説明する力の育成。
 - ・書くことを通して、『思考を整理すること』につなげていく。
 - ・教科書の言葉を使って、問題解決の流れや自分の考えをノート等に記述する。

- ②交流方法や個人差への対応
 - ・学力差、時間差における交流場面の工夫
 - ・個別支援が必要な児童への対応、支援のタイミング

- ③思考ツール、ICTの活用、学力検査結果や難しい単元の学習分析
 - ・文字数制限で説明を書く訓練をしていく。（他教科の学習場面で。）
 - ・図や式、言葉を使ってまとめたり発表したりする力。
 - ・難しい単元の学習状況や問題傾向の分析と対処法。（分数／比例／概数など）

①課題の焦点化・明確化

「何に向かってゴールはどこか？」

◇課題の明確化・情報の精査

- ・「学ばせたいことは何か？」
- ・「本時の学習で、必要な情報は何か？」

◇授業構想・タイムマネジメント

- ・児童の実態や成長段階に合わせた授業
- ・学習活動の時間配分の工夫

②視点の持たせ方～解決に向けた見通し～

「どのようなツールを使ったらよいのか？」

◇見通しの捉え方

～論理的に考える手助け～

- 問題解決に向けた手立て
- 予測する力
- 「数直線や図を描いたら分かりそう。」
- ・ヒントの与え方の工夫…どの場面で、どのように与えるか？必要とする児童に。

◇課題解決の場面での手立て

- 思考ツール…図や式、ICTの活用、考えの流れが分かるノートづくり
- 説明・発表の手本、助言やヒントの提示
- 補助ツール…ノートや掲示物の振り返り
- 少人数学習→教科書の登場人物の考えに触れていく。
- リーダー学習、交流学习

◇考えの根拠を明確にした発表

『どのような思考の流れで、ゴールにたどり着いたのか。』が伝わる発表を目指す。

◇交流の目的・思考過程の共有～深める～

『考えを共有し、みんなで発見し、考えを広げていくイメージ！』

③目標と評価の一体化

- どこでどのように、見取るのか？
- 児童の実態を踏まえた指導の工夫

◇振り返りの可視化と評価

- ・振り返りの取組…思考を整理できる良さ、次時の学習へとつながる。
- ・自己評価や振り返りを大切に。

VI 研究年間計画予定

	月 日	曜日	R4年度 研究の内容	ミニ研修	備考
1 学 期	4 / 20	水	第1回全体研修会（今年度の研究・理論研修）		
	5 / 18	水	第2回全体研修会（今年度の研究・理論研修） ★算数科における児童の実態交流（困り感）	特別支援につ いて：岡村 t	
	6 / 15 ※下記参照	水	第3回全体研修会（今年度の研究・理論研修） ★NRT等の学力検査や難しい単元の傾向と指導		
	6 / 29	水	第4回全体研修会 ★NRT等の学力検査や難しい単元の傾向と指導	ICT他	
	7 / 20	水	第5回全体研修会 ★マルメロ学級ミニ授業研修（～7 / 20まで 全学級公開：2日日程で実施予定）・事後研修	特別支援 授業交流	
2 学 期	8 / 31	水	第6回全体研修会（通常級の事前授業研①）→ ①授業者（ ）		
	9 / 7	水	第7回全体研修会 ①授業研・事後研修①		
	9 / 28	水	第8回全体研修会（通常級の事前授業研②）→ ②授業者（ ）		
	10 / 12	水	第9回全体研修会 ②授業研・事後研修②		
	11 / 9	水	第10回全体研修会（通常級の事前授業研③） ③授業者（ ）		
	11 / 30	水	第11回全体研修会（事後研修③） ③授業研・事後研修③		
	12 / 7	水	第12回全体研修会 ★研究の成果と課題	コンプライア ンス 他	
3 学 期	1 / 27	金	第13回全体研修会 ★取組事例の資料交流（各学級12月まで作成）	（がん教育 ・SDGs等）	（年度末 反省）
	2 / 8	水	第14回全体研修会（研究のまとめ：取組・実 態の交流／成果と課題／研究集録について）		職員会議
	3 / 1	水	第15回研究集録作成・発行に向けて／次年度 の方針		

※「NRT等の学力検査や難問単元の傾向と指導」は、ワークショップ型の研修を予定しています。